

# 主体的に学ぶ子供の育成

～ 社会科における課題選択学習の実践 ～

足利市立富田小学校 島田 あけみ  
清水 克彦

## I はじめに

科学技術の革新や経済の発展にともなって、社会の変化はますます進み、その速度は速まってきた。さらには、今後どのように変化するかが予測できないほど多様化しつつある今日、「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」は、学習指導の中心的な課題である。このことは、学習指導要領の改訂の基本方針〔自己教育力の育成〕にも述べられている。

本校では、平成元年度から、「主体的に学ぶ子供の育成」を学校課題として掲げ、多目的スペースを活用して個々の実態に応じた学習形態を工夫することによって、意欲的・主体的な学習態度を身に付けさせる試みを続けてきた。

また、平成2年度からは、「主体的に学ぶには、一人一人がしっかり基礎基本を身に付けることが大切」という考えから、漢字と計算の個人学習「あゆみ学習」をスタートさせた。

さらに昨年度は、「具体的な体験や活動を授業の中に積極的に取り入れることにより、子供たちの学習意欲が高まり、主体的に学ぶ態度が育成されるであろう」との仮説のもとに、理科・生活科の学習の中で具体的な体験や活動を取り入れた授業展開を工夫した。

本年度は、「いきいき教育活動実践モデル推進校」の指定を受けることになったが、「いきいきと活動する子」は、学校課題である「主体的に学ぶ子供の育成」の具体的な姿であると考えられる。そこで、昨年度までの研究を継続しつつ、学校生活全体を通して「子供たちのいきいきとした活動」を展開していくため、次の4点を本年度の研究の柱とした。

- ① 各教科の指導法の改善を通して、昨年度からの仮説の検証を進める。
- ② 特別活動の工夫改善を図る。
- ③ 学習環境を整備し、多目的スペースを積極的に活用する。
- ④ 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるため、国語・算数を中心とした「あゆみの学習」を継続し、内容を改善する。

社会科においては、上記の①及び③を受け、次のようなねらいと手立てを設定した。

- 広い視野から社会生活に興味・関心をもち、社会的事象を様々な角度からとらえようとする態度を育てる。

- ・自ら、学習問題を作り、学習計画が立てられるような支援の在り方を工夫する。
- ・調べる学習に重点を置き、実感として分かるようにする活動や体験を学習計画のなかに取り入れていく。
- ・地域や社会生活に目を向けさせ、学習に広がりを持たせる。
- ・個を生かす学習環境並びに学習形態の工夫を図る。

以上の構想に基づき、第3学年では体験や活動を重視した社会科の授業を、第5学年では個を生かす社会科の授業を、課題選択学習により展開した。

## II 授業の実際

### ○ 第3学年授業実践

#### 1. 小単元名 むかしの暮らしをつたえるもの

#### 2. 目 標

##### (1) 社会的事象への関心・意欲・態度

- ・足利市の絵地図や広報，または，身近に残っている古い道具などを手掛かりに，昔を伝えるものを意欲的に調べようとする。
- ・自分たちが，伝統や文化を後世の人々に伝えていかなければならないという自覚を持つ。

##### (2) 社会的な思考・判断

- ・昔を伝える事物を調べる活動を通して，過去の人々の生活の知恵や苦勞の様子がわかる。
- ・過去の人々の考え方や生き方などを考える。

##### (3) 観察・資料活用の技能・表現

- ・昔の暮らしを伝える物を見学したり，地域の古老の話聞いて調べることができる。
- ・これまでに学んだ方法を生かして，絵・図・新聞・紙芝居・絵本などにまとめることができる。

##### (4) 社会的事象についての知識・理解

- ・足利市の人々の暮らしの移り変わりを，家屋や道具・学校の様子などの変遷をもとにわかる。
- ・文化財や年中行事などは，人々の願いや努力で残されてきたことを知る。

#### 3. 小単元について

##### (1) 教材 観

現在のように高度に情報化された社会では，都会や農村を問わず，今までの生活が，どんどん新しいものになってきている。そのため，児童が実生活の中で古いものに触れることは，ほとんどなくなってきていると考えられる。このような中であって，児童が昔の人々の生活を想像したり，毎日の生活の中でどのような考えや願い事をめぐらせていたかを考えることは，たいへん難しい。

3年生という児童の発達段階を考えると，文字や記号による抽象的な思考ができるようになりつつあるが，実生活にはないものを扱うだけに，できるだけ具体的に，体験的に学習させたい。そこで，本小単元の学習活動は，まず，昔を語る具体的な「もの」との出会いから出発し，児童たちにとって，それは昔を知る手がかりとなっていく。そして，周囲に存在する昔を知る手がかりを探しながら，道具を中心に地域の人々の生活の移り変わりを理解させたい。また，道具だけではなく，地域に残る文化財や年中行事にも目を向けさせ，人々の願いは昔も今も変わらないことについても気づかせていきたい。それから，本小単元を通して，単に，昔の様子を知るだけでなく，現在の変わりつつあるものや，未来の暮らしの姿にも目を向けさせていければとも考えている。

(2) 学校課題とのかかわり

「主体的に学ぶ子供の育成」をめざして、本校の社会科では『広い視野から社会生活に興味・関心を持ち、社会的現象を様々な角度から捉えようとする態度を育てる。』というねらいのもとに、次のような手立てを取り入れて、授業実践に取り組んでいる。

- ・調べる学習に重点を置き、実感として分かるようにする活動や体験を学習の中に取り入れていく。
- ・地域や社会生活に目を向けさせ、学習の広がりを持たせる。

また、初等教育資料によると、主体的な学習活動とは、

- ① 自分の力をとことん発揮して、最後までやりぬく学習
- ② みんなで力を合わせ、言い合いをしながら高め合う学習
- ③ 疑問や課題を調べたり、観察したり、見学などをして、体ごとぶつかっていく学習
- ④ 創意工夫をめぐらして、思いっきり自分を発揮できる学習

ということであると書かれていた。

そこで、これらの4つの学習活動を少しでも児童たちが進めることができる場として、グループ学習という授業形態が最も適しているのではないかと考えた。そして、本小単元では、調べる活動→表現する活動→発表する活動を通して、主体的な学習態度の育成が図れればと思っている。

また、より一層グループで興味を持って学習ができるようにするために、学習の初めに、学習計画表を作成し見通しを持って進められるようにも考えてみた。

このようなグループ活動をしていく中で、児童同士、自分の気づかなかったことに気がついたり、友達のよい点を見つけたりして、活動が進められると思う。このことが、サブテーマ「学びあい、喜びあい、はげましあう」ことへつながるものと考えます。

4. 児童の実態

(男14人 女17人 計31人)

比較的男女仲良く、温和で素直な児童が多い。全体に自分の考えを挙手をして発表することには消極的な面が見受けられる。そこで、グループを中心とした小集団で順番に意見を発表させる手立てを取り入れ、つとめて発表の機会を与えている。

— 実態調査 —

調査項目内容	考察
<p>1. 社会は好きですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> <p style="text-align: center;">す き ( 29 人 )</p> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">94 %</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">きらい (2)</p> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">6 %</p>	<p>○ 社会科の好きな理由を聞いたところ、「探検や見学があるから」「町や市のことがよくわかるから」「グループ学習があるから」と答えた児童が多い。やはり、実際に自分で見たり、調べたりする学習に関心を示していることがわかった。そこで、体験的な活動を多く取り入れることにより、学習意欲の喚起を図りたい。</p>

2. 次のような道具を見たことがありますか。また、どんなことに使うか知っていたら、( )に書きましょう。

① ランプ

あ　　る (19人)	な　　い (12人)
61%	39%

② 火ばち

あ　　る (8人)	な　　い (23人)
26%	74%

③ わらじ

あ　　る (22人)	な　　い (9人)
71%	29%

④ かま・なべ

あ　　る (18人)	な　　い (13人)
58%	42%

○ ランプやわらじ、昔の台所用具については、半数または半数以上の児童が名前や使い方を知っていることが分かったが、話を聞いてみると、本やテレビなどで見たことがあるという程度であった。中には、若干名、家の物置きに以前あったという児童もいた。火ばちについては、26%の児童が知っていた。

この調査から、児童たちは、目で見たり、家にあったりしてなんとなく道具の名前や使い方を知っていることが分かった。

3. 家の人に子どものころのくらしの様子について話してもらったことがありますか。

あ　　る (11人)	な　　い (20人)
35%	65%

○ 結果を見ると、35%の児童が家の人から昔の暮らしについて話を聞かせてもらっていることが分かった。内容としては、「戦争が激しかった」「あまり物がなく大変だった」「川がきれいで泳いだり、せんたくができた」「きかいがなく、手作りの物が多かった」などが挙げられた。しかし、全体には昔の暮らしについて、あまり知識を持っていないことが分かる。

4. 昔の道具や人々の生活についてどう思いますか。

① 昔の道具（・理由）

[よくできている・めんどうである]

よくできている (15人) 48 %	・木やくぎで止めてある ・停電しても平気である
めんどう (11人) 36 %	・科学力がない ・自分の手でやるから ・きかいがないから
わからない (5人) 16 %	

② 人々の生活（・理由）

[楽しい・たいへんである]

楽しい (4人) 13 %	・遊びが楽しそう (お手玉, まりつき) ・川で泳げるから
たいへん (24人) 77 %	・戦争があって物がすぐ手に入らないから ・家族が多いから ・きかいがないから ・子どもがごはんをたいたりするから
わからない (3人) 10%	

○ 道具については、だいたい、よくできているとめんどうであると答えている児童にあまり差はなかった。児童が昔の道具に興味を持ちそれなりに道具の良い点を多少なりとも認めていることが分かる。

生活については、ほとんどの児童が大変であると考えていることが分かった。

このように間接的ではあるが多少の児童が昔のことに関して知識を持っているのは、本地区は農村地域で身近に古い道具が大切に保管されている家庭があったり、昔からこの地域に住んでいた人たちが多く、家族構成にもお年寄りが同居していたりということが考えられる。

しかし、児童の持っている知識は断片的であるので、本小単元の学習の機会に、地域にいるお年寄りの持つ知識や経験に触れさせたり、残されている古い道具等を活用したりして、昔の人々の暮らしに触れさせたい。

## 5. 展 開 計 画

	追 究 過 程 の ね ら い	学 習 活 動	時 間
つ か む	<p>○ 市や町に残されている古いものに関心を持ち、市や町の史跡絵図や写真を見て市や町のどこに、どんな古いものがあるか調べる計画を立てる。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>	<p>○ 副読本の写真や古い道具の実物を見て古いものが現在のものとどう違うか気づいたことを発表し合う。</p> <p>○ 「みんなの歴史博物館」づくりについて話し合い、調べてみたい課題を出し合う。</p> <p>○ グループごとに課題を選択する。</p>	3
調 べ る	<p>○ 選択した課題について資料を集め、集中して調べたり、考えたりする。</p> <p>(思考・判断 資料活用の技能・表現)</p> <hr/> <p>○ 表現の仕方を工夫し、博物館に展示するものを作成する。</p> <p>(資料活用の技能・表現)</p>	<p>○ 選択した課題を調べる方法を話し合い、資料を集める。</p> <p>○ 資料を読み取り、博物館づくりに必要な資料を選択する。</p> <p>○ 調べて分かったことを交換し合う。</p> <hr/> <p>○ 表現の仕方について、グループで話し合う。</p> <p>○ 表現活動を行う。</p>	9 (本時 8/9)
ま と め る	<p>○ 博物館が完成した喜びを友達と味わう。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>	<p>○ 博物館を作り、発表の準備をする。</p> <p>○ 家の人やお世話になった地域のお年寄りを招待して、博物館をみんなに発表する。</p>	5

## 6. 本 時 の 指 導 (本時11/17)

### (1) 目 標

グループの話し合いに基づき、課題について効果的にかかわりやすく調査・収集した内容をまとめることができる。

### (2) 同和教育の視点

ひとりひとりが自分の活動に責任を持って取り組むとともに、作業が遅い児童やうまく表現ができない児童が疎外されないように、協力して活動ができるように適切な援助指導をする。

(3) 展 開

○学校課題との関連 ◎同和教育上の配慮

具 体 目 標	学 習 活 動	時 間 ・ 学 習 形 態	教 師 の 支 援	評 価 の 視 点
<p>○ 本時の目あてをつかみ活動の見通しと意欲を持つことができる。</p>	<p>1. 本時の目あてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループごとに昔調べについて、みんなにわかるように工夫してまとめよう。</p> </div> <p>○グループごとに、どんなまとめ方をするか発表する。</p>	<p>10 分 一 斉</p>	<p>・各自、計画表を確認させ、本時の目あてをつかませる。 ○各グループのまとめ方が全員に分かるように、短冊カードを利用して、前面黒板に掲示する。 ・まとめとして表現活動をすることで、人々の生活の移り変わりや人々の願いなどについて分かかったことや昔調べを通しての自分の考えをたくさん作品の中に取り入れて表現していくことが大切であることを意識するように働きかける。</p>	<p>・本時の学習に対して見通しと意欲が持てたか。 (観察)</p>
<p>○ 友達と協力して、わかりやすくまとめ、楽しく活動することができる。</p>	<p>2. グループごとに表現活動を行う。</p> <p>① 作業分担の確認 ② 表現活動…………… (予測される活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居</li> <li>・絵 本</li> <li>・新 聞</li> <li>・パンフレットふうに</li> <li>・年表ふうに</li> </ul>	<p>30 分 グループ</p>	<p>◎グループ内の作業を分担表を見て確認してから、活動を始められることを知らせる。 ・予想される活動について次のような支援活動を行う。 紙芝居……………今と昔の違いや移り変わりをのり紙 絵 本 ……子や人々の生活と結びつけて絵で表現させ、気づいたことを文で表現するように知らせる。 新 聞……………小見出しのつけ方や記事の書き方を工夫するように助言する。 パンフレット……………未来の様子にも目を向けさせ、こんなふうにならなうってほしいというよきな希望も取り入れてまとめられるように助言する。 年 表……………調べた内容と生活の移り変わりを、大きな年代順にまとめられるように助言する。</p>	<p>・協力し合って、楽しく活動ができたか。 (作品・観察)</p>
<p>○ 次時の学習予定がわかる。</p>	<p>3. 本時の学習の反省をし、次時の予告を聞く。</p>	<p>5 分 一 斉</p>	<p>○活動の中で、まとめ方のわからない所があったら、グループ内でお互いに教え合うように助言する。 ○机間指導をしながら、各グループの進み具合を見て、活動が順調に進められているグループを賞賛する。 ◎とまどっているグループや児童が見られる場合には活動の仕方について相談のったり、援助したりする。 ・他のグループのがんばった所や工夫している点を取り上げ、次時の活動の参考にできるように働きかける。 ・自己評価表で、本時の学習の様子を振り返らせ、協力して活動が進められていたグループを、全員の前で賞賛する。</p>	<p>・最後まで粘り強く作品を仕上げることができたか。 (評価表・観察)</p>

7. 学習の結果

○ 学習計画表……平成5年度小教研の発表校である千歳小のものを参考に作成させてもらったもの。

学習計画表  
— おもしろくらしもうつたえるもの —

学習したい  
字や町には、どくしんのことを知りたいものとして、どのようなものを調べているでしょうか。

(子ども)  
遊ぶ物 写真  
洋服

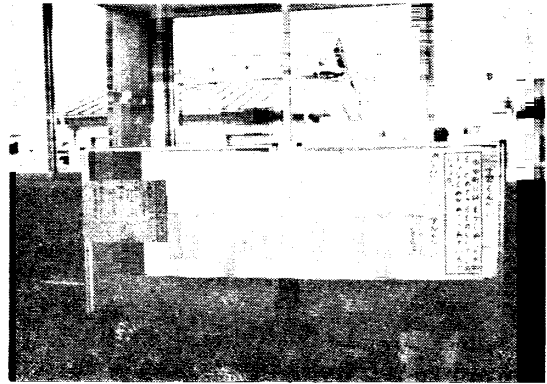
— 学習や資料を見て、おもしろいこと、おもしろいなこと —  
昔のものは人が  
五玉のこと

ほかの調べたいこと、おもしろいなこと……(自由記入)  
昔の生活の様子(遊び)

グループ名 遊ぶグループ ◎ まま方

調べたい  
人に聞く(他所(校外)に行く)  
本を見て、写真をとる

ゲーム式(パンフレット)



児童ひとりひとりの調べたいことを一覧にして、特に調べたいことを決めさせてグループづくりを行った。

— 課題選択学習によるグループ —

○ グループの計画づくり

○ 自己評価表

昔調べの計画 担任 武井優子

遊び グループ

メンバー (阿部 古橋 山本 鬼田 羽田 中村)

□ 調べたいこと… せんげんがはらで、せんげんへ行って、せんげんを調べたい

1/2 本曜日までにしようほをあげる

2/3 全曜日に昼休みにあつまる。図書室で、メモ帳

□ まま方のための仕事分担  
まま方 …… ゲーム(パンフレット)

武井優子

仕事	どんなことをどのようにやるのか?	名前
写真(画)	昔の物の写真に(はり)	古橋(陽)
絵をか	いろいろな所に絵をか	山本(心)
ゲーム	すごろくのようにする	阿部(望)
書く	考えたゲームを書	武井(優)
字を書く	いろいろな人の話を書	羽田(大)
教える	字を書く人に教	古橋(陽)
字	羽田君といっしょに字を書	鬼田(大)
		中村(大)

どのような物  
画用紙、3枚⇒枚だけ大きな画用紙  
色紙、黄色、緑、3枚ずつ

できたかなカード 担任 武井優子

日	学習すること	学習予定	できたか	できたか
11/16	学習したいを	学習したいを	○	○
11/21	グループ作り	自分の調べたいこと	○	○
11/24	調べたい計画を	調べたい計画を	○	○
11/27	調べる①	調べたいものを	○	○
11/30	調べる②	調べたいものを	○	○
12/3	調べる③	調べたいものを	○	○
12/6	調べる④	調べたいものを	○	○
12/9	調べる⑤	調べたいものを	○	○
12/12	調べる⑥	調べたいものを	○	○
12/15	調べる⑦	調べたいものを	○	○
12/18	調べる⑧	調べたいものを	○	○
12/21	調べる⑨	調べたいものを	○	○
12/24	調べる⑩	調べたいものを	○	○
12/27	調べる⑪	調べたいものを	○	○
12/30	調べる⑫	調べたいものを	○	○
1/2	学習のまとめ	学習のまとめ	○	○

(感想) 昔と今のちがいがよくわかった。楽しかったです。

(先生から)



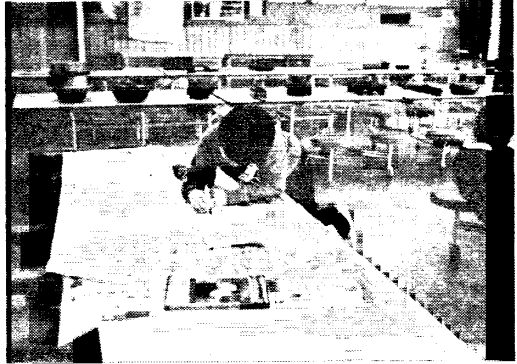


○ 作品にまとめる活動例

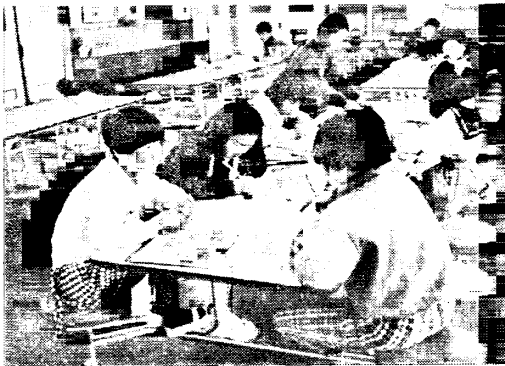
①おまつりグループ……まき物づくり



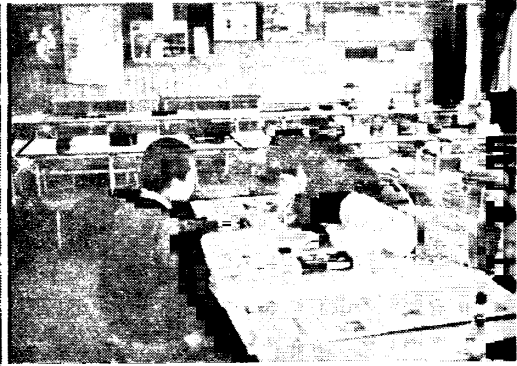
②いせきグループ……新聞づくり



③生活グループ……絵本づくり



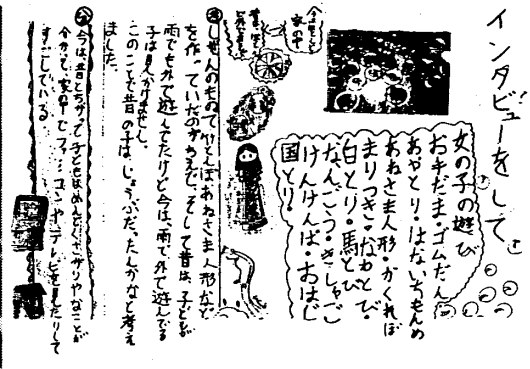
④仕事・手伝いグループ……年表づくり



⑤遊びグループ……ゲームづくりとパンフレットづくり



すごろくゲーム作成中



出来上がったパンフレット

## ○ 第5学年授業実践

### 1. 小単元名 我が国の貿易

### 2. 目 標

- (1) 社会的事象への関心・意欲・態度
  - ・我が国の主な貿易相手国と輸出入品などについて関心を持ち、それらを意欲的に調べようとする。
- (2) 社会的な思想・判断
  - ・貿易の仕事が国民生活や産業と密接な関わりを持っていることなど、貿易の果たす役割について考えることができる。
- (3) 観察・資料活用の技能・表現
  - ・地球儀や地図帳を活用したり、ビデオやグラフなどの資料を利用した分かったことをノートや白地図にまとめることができる。
- (4) 社会的事象についての知識・理解
  - ・我が国の主な貿易相手国と輸出の品目などについて、理解し、貿易の特色が分かる。

### 3. 小単元について

#### (1) 教材観

我が国の貿易は、N I E S 諸国等からの製品輸入により新しい動きがややあるものの、原材料を輸入して製品を輸出するという、いわゆる加工貿易であるところに特色があることには変わりはない。資源に乏しい我が国は、諸外国から工業原料を輸入し、より付加価値の高い工業製品を諸外国に輸出することで産業を発展させてきた。

さて、貿易に関わる学習は、従来、6年生の国際理解単元において扱われてきた。今回の指導要領の改訂においては、6年生の国際理解単元の手直しと運輸業と貿易の密接な関わりを考慮して、5年生で扱われることになった。本単元で扱う貿易は、国際理解としての扱いと異なり、貿易の現状を理解することに主眼があり、したがって主な輸出入の品目、貿易相手国などを調べるのが学習の中心となる。合せて、貿易の仕事に従事している人々の働きについて調べ、これらの学習を通して、貿易が果たす役割について気付かせていく。

#### (2) 学校課題とのかかわり

学校課題「主体的に学ぶ子供の育成」に迫るため、本小単元では次のような点を考慮した授業を展開していきたい。

- ・自分の生活に直接関わりのある事柄ならば、その社会事象に興味を持つ易くなる。貿易に関する事柄で子供たちに身近な物は、食料品であろう。そこで、小単元の導入には、日本独特の食べ物や給食の食料品などが輸入されているビデオ視聴させる。
- ・学習課題作りにおいて、一人一人の学習問題を取り上げ、同様の問題を持つ者同士でグループを作る。その際、十分いっしょに調べられるようなグループ作りを援助する。そして、グループごとに学習計画を練らせ見通しをもって学習に取り組めるようにする。ねらいに迫る課題が全て出てこない場合は、想の導入をする。また、小単元のまとめ方についても

このときに話し合っで決める。

・調べるための資料を一律なものにせず、自分たちで用意したり、選択したりするようにする。

・個性が生かせるように、まとめの発表の際に使いたいものや必要なものはできるだけ十分に用意する。また、自分たちだけでも操作できるように普段より視聴覚機器の使用に慣れさせる。(オープンスペースの利用)・地球儀は、4年生の自然環境としての国土の特色で我が国と近隣諸国との位置関係を調べる際に扱ったが、本小単元のように世界の国々の場所を調べるために活用するのは初めてである。地球儀の活用に慣れるために、いつでも手に触れられるようにしておく。

・各自の意欲をもとにまとめ、発表させるので、知識・理解が偏る心配もある。単元最後の発表の際に、自分たちで調べていない内容について項目別に工夫するなどして記録させ、理解の定着を図る。

また、「学びあい、喜びあい、励ましあう活動を通して」というサブテーマをもとに、次のような点を考慮した授業を展開させていきたい。

・学習計画表を作る際に、一人一人の考えの価値をみんなで認めた上で、学習計画表を作るようにする。

・グループ学習では、協力して学習が進められているグループを誉め、そうでないグループについては、個別に支援する。

・授業の終わりに、調べたこと・調べた方法、調べた結果・感想・次時の目当てなどを発表させ、情報交換の時間を設ける。

・できるだけたくさん意見の吸い上げるようにし、友達の発表や気持ちを汲み取りながら聞くようにさせる。

・他のグループの学習の進捗や内容が全員に分かるように、作業内容を教室に掲示する。

#### 4. 児童の実態 (男子14名・女子17名、計31名)

##### 実 態 調 査

1 社会科の学習のなかでどんな学習をしているとき楽しいとか、つまらないとか感じますか。○をつけて教えてください。

	楽しい	ふつう	つまらない
学習問題を作る活動	11名	20名	1名
予想を立てる活動	9名	19名	3名
資料をさがす活動	17名	12名	2名
資料を読み取ったりする活動	7名	22名	2名
資料をもとに考えをまとめる活動	4名	18名	9名
友達と考えを出し合い、確かめ合う活動	17名	13名	2名
分かったことをまとめる活動	17名	11名	3名

2 社会科の学習をするときにどんな学習のしかたが好きですか。好きな学習のしかたに○をつけ、わけも書いてください。

自分の課題を自分で調べる学習	9名	・自分のやりかたでできる
クラスの課題を自分で調べる学習	2名	・いろいろなことが分かる
クラスの課題を何人かで調べる学習	9名	・協力できる ・考えがたくさん出る
同じ課題をもつ人同士でグループをつくり調べる学習	11名	
・教えあえる ・協力できる ・考えがまとまりやすい ・いろいろな人が学習できる		

3 次の言葉を聞いたことがありますか。また、それはどんな意味ですか。

	聞いたことのある人	そのうち意味が説明できた人
空 輸	4名	2名
加工貿易	10名	2名
逆 輸 入	10名	1名
貿易まさつ	12名	0名
米輸入の自由化問題	16名	2名

4 日本の貿易（輸入や輸出）について知っていることをできるだけたくさん書いてください。

・アメリカへの車の輸出	7名	・貿易の不均衡	3名	・石油の輸入	3名
・外国の失業問題	3名	・精密機械の輸出	2名		
・米輸入の問題	2名	・小麦の輸入	1名		

5 下のグラフをみて答えてください。

[ グラフ略 ]

(1) 日本の輸出の移り変わりについて調べるとき、どのグラフを利用しますか。

正 解 21名

(2) 上のグラフから分かることをいろいろ書いてください。

・ひとつのグラフから読み取ったことを書いてください。	11名
・ふたつ以上のグラフから読み取ったことを書いた	16名
・読み取ったことから考えたことを書いた	6名
・読み取れない	3名

(3) 鉄鋼の輸出について質問します。1960年のほうが割合が多いのですが、金額について調べてみると、1987年は1960年の約10倍になっています。このことからどんなことがいえますか。

・値段が高くなった。	7名	・工業が発展した。	2名
・輸出量全体が増えた。	1名	・無答や意味不明	21名

6 あなたの知っている外国の名を白地図に記入してください。国名が分かっていても、その国がどこにあるか分からないときは、に書いてください。

国名	国名記入者数	場所の正解者数	国名	国名記入者数	場所の正解者数
アメリカ	30名	12名	オーストラリア	26名	15名
中国	23名	9名	カナダ	15名	5名
(ソ連)	12名	2名	イギリス	12名	0名
インド	12名	0名	ブラジル	7名	3名
ドイツ	7名	0名	イラン	7名	0名
フランス	6名	2名	韓国	6名	1名
朝鮮	6名	0名	ネパール	6名	0名

(40か国の国名が挙げられたが、場所と国名が一致したものは上記の国の8か国以外にはなかった。)

実態調査の1・2からは、個人で学習するより、協力したり助け合ったりして学習できる形を好んでいることが分かる。本小單元ではグループ学習を基本の学習形態として進めていると考えている。また、学習課題を自分のものとしてとらえさせることの大切さも分かる。貿易港などの見学ができないため、直接体験はできないが、自分がその仕事に着いたらどうするかを考えた後に貿易の仕事に従事している人々の働きをビデオで視聴したり、親が貿易に関わっている児童にその流通の仕組みなどについて発表させたりすることで、課題に対する興味の持続を図りたい。

ところで、実態調査の1・5から、社会的な思考・判断の力が劣っていること、その結果、考えることを好まない傾向にあるということが分かる。これは、普段の授業において考えを深めるような働きかけを十分していないという結果の現れであり、反省点としてとらえなければならない。また、資料活用の力も定着しているとは言えない。この小單元に限らず、資料の基本的な読み取り方や社会事象のとらえ方について、それができた子どもにどのように考えていったのか発表させていくことを通して、それらの力を培っていききたい。

実態調査の3・4から、普段の生活において、貿易に対して注意を払っているとは言えない。貿易に対してこれまでとは違った見方が少しでもできるように、小単元の学習に入る以前に、家庭にある輸入品を調べさせたり、新聞などで貿易に関する記事を集めさせたりしていきたい。

実態調査の6から、ある程度は外国の名前を知っているというものの、その場所については分かっていないということが言える。また、サウジアラビアやアラブ首長国連邦といった石油の輸入相手国については名前が挙げられなかった。貿易の広がりや理解させるための手段として、白地図の利用が効果的である。しかし、多分に国探しや色ぬりに興味が移ってしまう恐れがある。普段より、外国探しや外国名ビンゴなどのゲームをしたり、効率の良いグループの協力の仕方を学ばせていくことが大切である。

## 5. 展開計画

(総時間数 6 時間)

	追究過程のねらい	学 習 活 動	時間
つ か む	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の貿易に関心を持ち、学習計画を立てる。</li> </ul> (関心・意欲・態度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の貿易の様子をビデオなどから知り、貿易について調べる計画を立てる。</li> </ul>	1
調 べ る	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の主な貿易相手国と輸出入の品目などについて調べ、その特色に気づく。</li> <li>貿易の方法について調べ、貿易が果たす役割に気づく。</li> </ul> (思考・判断) (資料活用の技能・表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の主な輸入相手国と輸入品目について調べる。</li> <li>我が国の主な輸出相手国と輸入品目について調べる。</li> <li>我が国の貿易の特色について考える。</li> <li>貿易の仕事に従事している人々の働きについて調べる。</li> <li>貿易の仕事が国民生活や産業を支えていることについて考える。</li> </ul>	4  本 時 2 / 4
ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べて分かったことや考えたりしたことを発表する。</li> </ul> (知識・理解)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の貿易の特色やその役割などについて、分かったことや考えたことを発表したり、聞いたりする。</li> </ul>	1

## 6. 本時の指導 (本時 3 / 6)

### (1) 目 標

グループの学習計画に基づき、我が国の貿易の様子を調べることができる。

### (2) 同和教育の視点

グループ内で作業が遅い児童が疎外されることなく、協力して活動できるように適切な援助指導をする。

(3) 展 開

○学校課題との関連 ○同和教育上の配慮

具 体 目 標	学 習 活 動	時 間・学 習 形 態	教 師 の 支 援	評 価 の 視 点
<p>・本時の課題とその調べ方について整理し、見通しと意欲が持てる。</p> <p>・グループの学習計画にそって、学習問題を解決していくことができる。</p>	<p>1. グループの代表者が自分たちの本時の学習問題とその解き方について、発表する。</p> <p>2. 自分たちの学習問題について、グラフや地球儀や教科書などの資料を使って調べる。</p> <p>3. 調べたことを小単元のまとめの発表の時に生かせるように、まとめていく。</p>	<p>5 分</p> <p>斉</p>	<p>○各グループの学習内容や進め方が全員に分かるように、前面黒板に学習計画表を掲示する。</p> <p>○友達の見聞を聞き、資料活用などの点を自分の学習の参考にできるように助言する。</p> <p>◎グループ内での作業分担を明らかにしてから、作業を始めることを知らせる。</p> <p>○資料などはあらかじめ各グループごとに準備するよりに働きかけておく。</p> <p>○ひとつの資料や機器をいくつかのグループが重複して利用するような場合は、同時に利用させたり、順序よく利用できるように働きかける。</p> <p>◎グループや個人の学習の様子や進み具合を観察し、つまづきが見られる場合に、学習の仕方について相談したり、まとめの援助をしたりする。</p> <p>○グループ内で話し合われた考えをできるだけ多く取り上げてまとめをしていくように助言する。</p> <p>◎発表する人が何を言いたいのか、どんな気持ちでいるのか考えながら聞くように働きかける。</p> <p>○社会現象をよくとらえた意見が発表された場合は、その意見が導かれた過程について発表してもらおう。</p> <p>○本時の学習の様子（計画通り進めたか・調べたことなどから自分の考えが持てたか・グループ内で協力して学習できたか・友達の見聞をよく聞けたか）を自己反省させ、協力して学習が進められているグループについて、全員の前で賞賛する。</p>	<p>・本時の学習に対して見通しと意欲が持てたか。</p> <p>(観察)</p> <p>・効果的に資料を選択したり、利用したりして、計画に沿ったまとめができたか。</p> <p>(観察・ノートなど)</p>
<p>・本時の学習の成果を発表することができる。</p>	<p>4. グループごとに本時の学習で分かったことや考えたことなどを発表する。</p> <p>5. 本時の学習の反省をし、次時の打ち合わせをする。</p>	<p>10 分</p> <p>斉</p> <p>グループ</p> <p>5 分</p>	<p>・本時の学習の成果が発表できたか。</p> <p>(発表)</p> <p>・協力して学習が進められたか。</p> <p>(反省カード・観察)</p>	



7. 学習の記録

家庭から持ってきた輸入品 (16ヵ国, 35種類)

個人の学習問題

輸入品の名前	ブランデー
輸入国	フランス
自分の名前	須永東雄

輸入品の名前	ぬいぐるみ
輸入国	スリランカ
自分の名前	黒田 幸子

貿易の中で、こまっていること、大へんばことは何か

日本が輸出や輸入をしなかつたら日本の生活は、どうなるのだろう。  
土金 野子

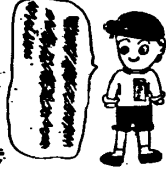
班の学習計画表 (個人の学習問題を6テーマに分類し、6班を編成)

月日	12月7日	12月10日	12月13日	12月16日	12月19日	12月20日	反省
計画通り進めたか	○	○	○	○	○	○	計画通り進めたか
自分の考えが持てたか	○	○	○	○	○	○	自分の考えが持てたか
協力して学習できたか	○	○	○	○	○	○	協力して学習できたか
友達の意見がよく聞けたか	○	○	○	○	○	○	友達の意見がよく聞けたか
まとめ方(発達の仕方)	○HP(シート4まい) 世界地図(2まい) 新聞(用紙1まい)						日本はどの国へどんな物を輸出しているのか。 アメリカへ輸出していると思う。日本は機械工業がさかんなので、主に機械が輸出していると思う。
主な学習内容	○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉) ○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)						日本はどの国へどんな物を輸出しているのか。 ○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)
学習問題	○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)						日本はどの国へどんな物を輸出しているのか。 ○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)
まとめ方	○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)						日本はどの国へどんな物を輸出しているのか。 ○HP(石川) ○HP(野村) ○HP(小倉)

我が国の貿易 (二選) 自分の名前 (石川 昌代)  
 友達の名前 (小林君・小倉さん・野村さん)

輸出や輸入しているもの

あてのら子一んが  
買物についてきくとおねえ  
さんやおつめおねえさんとい  
う人が調べたいくよ!

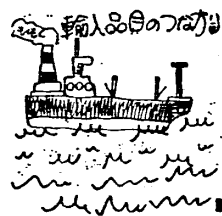


おもに輸出しているもの

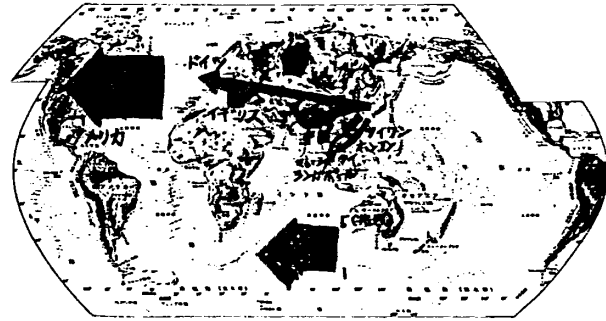
1989年  
鉄鋼・精密機械・通信機・自動車部品  
半導体素子・内燃機関など

おもに輸入しているもの

1989年  
石油・原棉・羊毛・鉄鉱石・ゴム類



～日本のおもな輸出先～

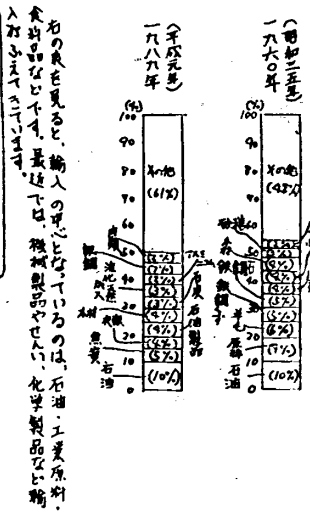


まとめ  
安いアメリカの米がはいり、日本の米はそれ  
になくなくなりました。たり、日本の農家は、生活が  
うまくなかた。



# ロ口物を輸入する国々

どんな品物を輸入しているのか。



品名	1948年	1949年
食料品	10%	10%
繊維	10%	10%
機械	10%	10%
化学製品	10%	10%
石油	10%	10%
鉄鋼	10%	10%
銅	10%	10%
鉛	10%	10%
亜鉛	10%	10%
錫	10%	10%
鋅	10%	10%
ニッケル	10%	10%
コバルト	10%	10%
マンガン	10%	10%
モリブデン	10%	10%
バナジウム	10%	10%
チタン	10%	10%
タングステン	10%	10%
ニオブ	10%	10%
セシウム	10%	10%
リチウム	10%	10%
カリウム	10%	10%
ナトリウム	10%	10%
マグネシウム	10%	10%
カルシウム	10%	10%
バリウム	10%	10%
ストロンチウム	10%	10%
ベリリウム	10%	10%
スカンジウム	10%	10%
イットリウム	10%	10%
セリウム	10%	10%
プラセオジム	10%	10%
ネオジム	10%	10%
プロメチウム	10%	10%
ウラン	10%	10%
プルトニウム	10%	10%

右の表を見ると、輸入の中心となっているのは、石油・工業原料・食料品などです。最近では、機械製品やせいはい、化学製品なども輸入がふえています。

上の表は、1948年、1949年の、食料品、繊維、機械、化学製品、石油、鉄鋼、銅、鉛、亜鉛、錫、鋅、ニッケル、コバルト、マンガン、モリブデン、バナジウム、チタン、タングステン、ニオブ、セシウム、リチウム、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、バリウム、ストロンチウム、ベリリウム、スカンジウム、イットリウム、セリウム、プラセオジム、ネオジム、プロメチウム、ウラン、プルトニウムの割合を示しています。

資料：経済企画庁

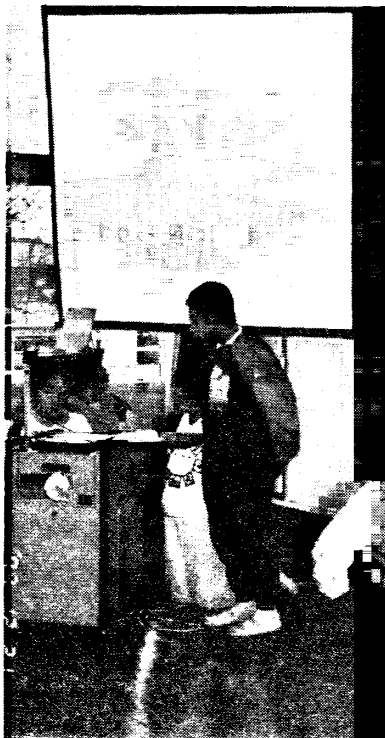
どんなロ口物を、またどの国で輸入しているのか。



学習の様子



発表会の様子・発表会のまとめ



我が国の貿易 年 通 覧 名 冊

めあて

我が国の貿易の特色や貿易の仕事にたずさわっている人の工夫や努力についてまとめよう

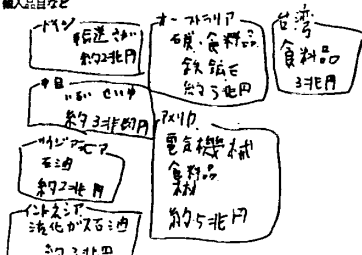
1 輸出品目など

- 日本はきつい競争力を持っていて、中でも車が強く輸出されている。
- 輸出品目はほとんどアメリカへ行っている。
- 1960年対はたかりの1965年対はたかり、1975年対はたかりにして1988年対はたかりです。(10年対はたかり) となっています。
- ただ、だんぜん運賃が下がってきているのが日本の特色。

2 輸出手国など

「おもにアメリカ合衆国、ドイツ、イギリス、日本の下、韓国、大がたタナカーに輸出する」  
 ビートル、エンどうき  
 ニクは「なご」の文化財 輸出してはいない物

3 輸入品目など



4 輸入相手国など

全体 アメリカ 22%、インドネシア 5%、中国 5%、オーストラリア 5%、韓国 5%、ドイツ

石三由

アラブシベリヤ 2%、サウジアラビア 1%、インドネシア 14%、オーストラリア 9%。

5 貿易と私たちの生活との関わり

- 輸出や輸入は多い。
- 貿易のおかげで生活は助かっている。
- 今は米も輸入している。
- 原料を輸入して、製品を輸出している。

6 貿易の仕事にたずさわる人の工夫や努力

加工貿易  
 コンテナの長い所  
 コンテナは箱の中でもっともスピード  
 今の貿易の問題はコンピュータに  
 使われている半導体  
 今は10日以内でいくか者は2週間くらいかかた。

7 「我が国の貿易」を学習しての感想

貿易は、地球の国々が協力しあっているからできる物です。だからこれからも協力しあて、おたがいの生活を下すけあってほしいです。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 学習計画表について

- 学校課題「主体的に学ぶ子供の育成」を受けて、単元全体を児童一人一人が見通しを持って活動することができるようにするために、学習計画表を取り入れた。そうすることにより学習内容が明確になり、児童が意欲的に課題に取り組んでいた。

#### 2. 調べる活動の導入の仕方について

- 導入についても発達段階に応じて、教師の関わり方も違うのではないかと考え、3年生では、本時の活動の手順・分担をひとつひとつ丁寧にやさしくおさえ、5年生では、簡単な確認で児童を放し、児童の活動の時間を確保していった。その導入により、児童の活動の意欲を喚起しねらいに迫るための十分な活動をさせることができたようだ。

#### 3. グループづくりについて

- グループ学習におけるグループづくりにおいて、今回は、自分で調べたいことを中心に、同一課題ごとにグループを作る課題選択学習を取り入れてみた。そのことにより、児童の調べたいという興味・関心の持続を図ることができた。グループ学習とは、お互いに学習への取り組みを高め合うために必要となってくるものなので、児童の立場に立ってグループ編成をすることが大切のようだ。

#### 4. 教師の支援のあり方について

- 学習を展開するのは児童であるので、最適に学習することができるように、児童の興味を重んじた支援活動を教師は工夫していく必要がある。

#### 5. 調べる活動について

- 調べる活動段階において、3年生では、自分の家の祖父母や地域のお年寄りにグループ単位、または、個人的に課題解決のために必要な事柄を聞き、メモを取り、それを持ちよりひとつひとつ情報を整理していった。調べる活動を続けていくうち、新たな疑問点がでてきてさらに詳しく聞き取り調査をくり返し、課題解決に迫っていくことができた。5年生では、身の回りにある外国の品物を集めさせたり、視覚覚機器を大いに取り入れ幅広い情報から課題解決に迫っていった。その過程で、自分の課題を解決するために自分でニュースをビデオに撮り活用していた児童も見受けられた。このような調べる活動において、児童たちが主体的に学習に取り組んでいることがわかった。

### Ⅳ おわりに

小学校では、教科や科目の選択ということはない。しかし、子どもたちの興味・関心に対応して、学習課題や学習の進め方、つまり、学習コースの選択の道を拡大していくことはできる。こういった課題選択学習を実施してみて、改めて子ども一人一人に充実感を味わわせることが教師の使命のひとつであることを感じた。この充実感が生きて働く知識へと変容していくのであろう。

幸いなことに、本校はオープンスペースを兼ね備えた教室が6教室あり、T・Tによる課題

選択学習が実践できる環境にある。教師の特長を生かしたT・Tと子どもたちの興味・関心に基づいた学習法をハイブリッドすることで、一歩前進した学習が成り立つ。現在も、理科や保健の授業でこの方法を取り入れて実践しているが、今後の課題として、このような授業の研究が残されたようだ。

## 評

新しい学力観に立つ社会科の学習指導は、自ら考え主体的に判断し、表現できる資質や能力の育成を基礎的・基本的な内容の中核をなすものとしてとらえ、それらの資質や能力を獲得することを学習の基本とする必要がある。

そのためには、問題解決的な学習過程を工夫したり、作業的、体験的な学習活動を組み入れたり、さらには教材形態や学習形態を工夫したりするなど、子供一人一人のよさや可能性を生かすことを根底に据え、子供の主体的な学習活動を中心にして社会科の学習を展開することが求められている。

富田小学校の研究は、まさにこの課題を受けての研究と受け止めることができる。本研究の特色は、広い視野から社会生活に興味・関心を持ち、社会的事象を様々な角度からとらえようとする態度を育てることをねらいとし、次のような手だてを設定して取り組んでいる。

1. 子供たちが自ら学習問題を作り、学習計画が立てられるような教師の支援の在り方を工夫する。
2. 調べる学習に重点を置き、実感として分かるようにする活動や体験を学習計画の中に取り入れる。
3. 地域や社会生活に目を向けさせ、学習に広がりをもたせる。
4. 個を生かす学習環境並びに学習形態の工夫を図る。

3年生の事例では、学習の初めに学習計画表を作成し、見通しをもって主体的に学習が進められるように工夫している。調べる活動においては、体験を重視し、地域に出かけ地域のお年寄りのもつ知識や経験に触れたり、具体物を活用したりしながら学習に広がりをもたせ、様々な情報を収集させている。また、作品にまとめる活動では、子供自身自ら表現方法を選択し、様々な方法で表現している。

5年生の事例では、学習問題作りにおいて、一人一人の疑問を大切に自分で調べてみたいことを中心に、同一課題をもつ友達でグループを作り、課題選択学習を取り入れている。また、調べる活動においては、学習計画表により見通しをもたせながら身の回りにある外国の品物を集めたり、視聴覚機器を大いに活用し、幅広い情報から課題解決に迫っている。

富田小学校の実践は、「まず、子供の活動ありき」の考えのもとに、子供の学習活動を中心に据えて学習の展開が構成されていることである。教師は、子供たちが最適に学習活動に取り組むことができるように支援する立場に立ちとうとしている。このことは、今後の社会科の授業の展開を考えていく上で大いに参考になると思われる。先生方のご努力に感謝申し上げ、今後とも研究を継続され、実践を積み重ねて、更に研究が深められることを期待する。